

ポスターB-7

ポスター発表(研究)

外国人生徒に対する高校教育支援の研究

—特別入学枠の分析を通して—

大東直樹(神戸大学大学院生)

1. 研究の目的

本研究の目的は、外国人生徒を対象にした高校特別入学枠に注目し、その実態を検討することで、外国人生徒の高校教育支援に関する課題を教育社会学の観点から明らかにすることである。その際、志水(2014)の指摘を踏まえ、本研究では外国人生徒というとき日本国籍を有しながらも「外国にルーツをもつ」生徒を含み議論を進める。なお、国籍が重要である場合は外国籍生徒という語を用いる。

2. 研究の意義

本研究の意義は、これまで外国人の子どもの教育支援に関しては小・中学校での研究が蓄積されてきたなかで、次なる課題として、高校における教育支援に着目している点にある。とくに近年、外国人生徒に対する特別入学枠を実施する自治体も増え、そのため日本語指導が必要な高校生も年々増加してきている状況にある。

3. 調査の方法

本研究は、兵庫県で2015年度からモデル事業として実施している特別入学枠に注目し、教員と外国人生徒の両者にインタビューすることで、制度の実態を検討するものである。

4. 結果と考察

調査の結果、入学試験の合否、あるいは入学後の生徒の学習や適応において、彼らが現状で有している日本語能力が重要な役割を果たしていることが浮き彫りになった。本調査の事例は、特別入学枠を実施したばかりの自治体・高校であり、現場の多大なる努力・日々の試行錯誤によって制度が構築・運営されている。そしてそれが生徒の学校適応や学習機会の充実に功を奏していることも確認できた。しかし一方で、一般の入試制度から抜け落ちてしまう外国人生徒を拾い上げることを可能にした特別入学枠は、その制度から(あるいはその制度のなかで)、また新たに抜け落ちる生徒も生み出していることは否めない。その大きな理由の1つが生徒の日本語能力であり、これは現場の大きなジレンマになっている。今後、こうした抜け落ちてしまう子どもをいかに取り込むかが重要な課題になると考える。

【引用文献】

志水宏吉・高田一宏・堀家由妃代・山本晃輔(2014)「マイノリティと教育」『教育社会学研究』第95集、pp.133-170。